

No.4

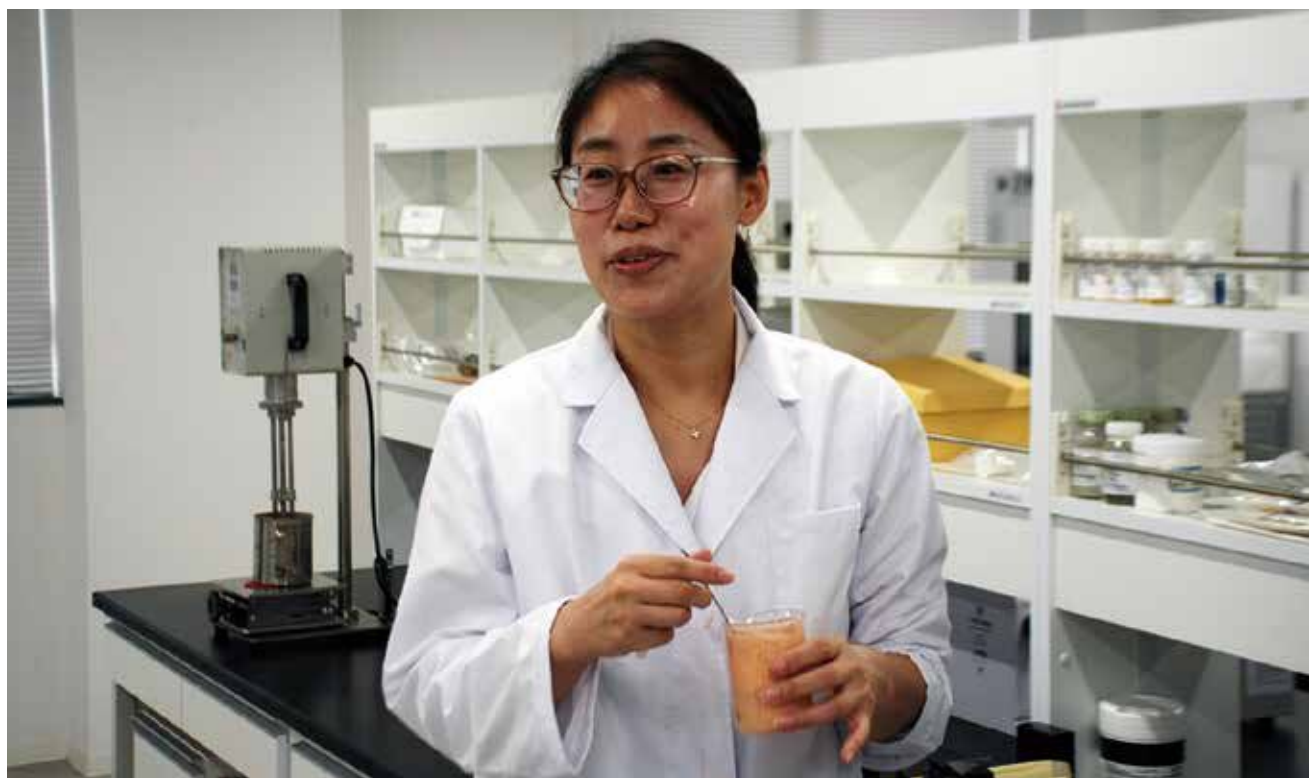
葛飾区の中小ものづくり企業の皆様へ

葛飾トゥモロウ

産×学×公で明日を拓く

化粧品原料供給から製品開発まで
東京理科大との連携を力に事業展開

(株)YM COSME



東京理科大学葛飾キャンパスの研究棟にあるインキュベーションルームで試料を手に化粧品材料の配合試験について説明するYM COSME代表取締役の吉田有伽さん

フロンティア
かつしか

「毎日、新しいことばかりで、ドキドキしています」と語る(株)YM COSME代表取締役の吉田有伽さん(=2面に吉田さんインタビュー掲載)。

同社は、吉田さんが化粧品原料メーカーでの研究職やOEMメーカーおよびブランド会社での勤務経験をもとに、2020年11月に設立した若い会社です。

23年7月には、東京理科大学葛飾キャンパス研究棟にあるインキュベーションルームに研究設備を整えたオフィスを開設。同大学で界面物性の研究を進めている酒井健一教授(創域理工学部先端化学科)と共同研究契約を結び、産学連携を原動力に会社の経営を軌道に乗せ、化粧品の原料供給から新製品開発、コンサルティングまで幅広く事業を展開しています。

「化粧品の世界には流行があり、安全や健康などに対する消費者意識の変化によって市場が常に動いています。弊社の強みは、そうした動きに臨機応変に対応できる点にあります」

と吉田さんは説明します。

化粧品の開発には、発色はもちろん、素肌への馴染みや伸び、乾きなど多くの要素が関係します。そうした中で、例えば粉体を液中に分散させる際に界面活性剤が欠かせませんが、混合する分量により性状や使用感が様々に変化するといえます。大学との連携により、そうした成分の処方の裏付けとなるデータを取得して、営業活動で説明できることが大きなメリットとなっています。

Point

今年7月には、同社が開発したクリームを採用したブランド化粧品が初回オーダー1万ピースで発売され、1週間後にはさらに1万ピースの追加発注が入ったとのこと。会社の実績と信頼を着実に広げています。

「理科大発ベンチャーが手掛けている素材を化粧品に使えないか検討も進めています」と吉田さん。理科大との連携の輪が広がり、近い将来、葛飾区が化粧品開発のまち、として国内外で注目されることも夢ではないかもしれません。

東京理科大学との産学連携を活かして(株)YM COSMEの経営を軌道に乗せている吉田有伽さん。「仕事と子育てを両立させたいと思い、独立して会社を作ることにしました」と目を輝かせます。大学と研究を始めたきっかけや連携しているメリット、今後の抱負などについて語っていただきました。

全体を見ながら得意分野で活躍を！

化粧品業界は、新商品の開発から販売に至るまで変化が激しく、競争も厳しいと聞きます。そうした中で起業した経緯は？

「大学で有機化学を専攻して、卒業した時にリーマンショックで就職難だったのですが、化粧品の原料メーカーの研究部門に就くことができました。

海外で販売が伸びていたのですが、原料の粉のままでは売りにくい。製品に近いものにして販売先の企業に納得してもらう必要があり、その処方開発を担当しました。

その後、二人目の子どもを出産した頃にコロナ禍の混乱があり、子育てと仕事の両立が難しくなりました。研究職では簡単に休めないし、残業が避けられませんでした。

そこで、自分で会社を始めることにしました。家族が『専門的な経験があるのにやめてしまうのは、もったいない』と励ましてくれたことが力になりました」

● 金融機関からの情報

東京理科大学との連携は、どのような縁で始まったのですか。

「近くに立派な大学があるな、という感じでなんとなく見ていました。そんな時に、葛飾区と東栄信用金庫が連携して開催した創業塾で理科大のインキュベーションルーム入居募集のチラシをもらいました。自分で自由に使えてやりたいことができるラボが欲しいと思い、入居を決めました。

そして、勉強目的で理科大のデータベースを調べているうちに、創域理工学部先端化学科の酒井健一先生の論文に出会いました。先生の研究室では、AIM（機能性界面制御剤）という新たな物質概念を提唱して、乳化物を調整する研究などに取り組んでいます。そこで、酒井先生に弊社で処方した製品を評価してもらうことにしました。評価の結果を受け取って、また処方を工夫していくという繰り返しで、製品に仕上げていく流れです。その成果として、この7月、ブランド化粧品に私たちの製品が採用されました（1面参照）」

新商品の開発からコンサルタントまで、幅広く活躍していますね。何が日々の原動力になっているのでしょうか？

「もともと手を動かすことが好きで、料理も大好きです。そ

の点、化粧品の開発は料理のレシピに似ていて、そこが面白いのです。`隠し味、も大切です」

開発では、失敗してしまうことも多いのでは？

「原因と結果を考えることで、失敗も無駄ではないのです。試行錯誤が必要です。ただし、酒井先生のデータに基づいて分

析・評価を進めることで試作の回数を減らし、開発に必要な時間を短縮できます。使う材料も減らせて、コスト削減にもなります」

● 役割を分担し力を発揮！

産学連携を検討したいという人に、アドバイスをお願いします。

「新製品の開発や課題の解決に、すべて1社で取り組む必要はないと思います。大学が得意とするところは、大学にお願いする。企業と大学がそれぞれ得意な領域で力を発揮できれば、1足す1が2ではなくて、それ以上の力を出せます。その際、全体を見て、役割分担を最適にしていることが大切だと考えています。

弊社の場合、分析装置をすべて自社で揃えて人員を配置することは不可能です。大学との連携が欠かせません。

今後の抱負について。

国や地域によって、化粧品に対するニーズは様々です。これからも常

にアンテナを張って、消費者の『美と健康』の課題に応える化粧品を開発して届け続けていきたいと思っています。さらに、事業のもう一つの柱として、健康食品の分野を育てたい。

酒井先生との連携では、今はまだ公表できないのですが、2028年の発表を目指してほかにも新製品を開発中です。また、インターンシップで学びたい学生が現れれば、私たちのラボで受け入れたいと考えています。



クリームを処方して比較試験を実施。肌に塗布して使用感を確認

インタビュー

明日を語る



吉田 有伽さん
(株)YS COSME 代表取締役

コーディネーターに聞く

Q&A

芝浦工業大学では産学官の連携に どのように取り組んでいるのでしょうか？

芝浦工業大学では、「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を建学の精神に実学を重視。複合領域産学官民連携推進本部を設置し、幅広く技術移転や共同研究の推進に力を入れています。そこで、同大学豊洲キャンパス(江東区)を訪ね、産学官連携コーディネーター／リサーチアドミニストレーター(URA)の田中芳親さんにお話を伺いました。今号と次号の2回に分けて紹介します。

Q 様々な社会課題の解決に貢献しようと、各大学が産学官連携に力を入れています。芝浦工業大学の場合、どのような点に特徴があるのでしょうか。

A 本学では、「教育・研究・イノベーションの三位一体推進」を基本方針に掲げ、大学(教員・学生)と企業・地域のみなさまの双方にメリットのある活動を目指しています。

本学は、工学部、建築学部、システム理工学部、デザイン工学部の4学部で構成され、これら理工学分野のすべてを対象に、ミクロからマクロ、基礎から開発まで幅広く研究体制を整えています。特徴的なのは、**若手研究者が早くから自分の研究室を持ち、このため多くの研究室がある点です。これにより、きめ細かな研究展開とニーズに即した機動的な対応が可能となり、とりわけ中小製造業のみなさまとの相性の良さにつながっていると思います。**

Point

Q 技術相談はどのくらい寄せられていますか。また、共同研究は何件くらいあるのでしょうか。

A 令和7年度の実績で、326件の相談を受け付けました。コロナ禍の影響で相談件数が一時減少したのですが、その後は毎年、増え続けています。技術相談は全国の企業から寄せられており、とくに東京都内の企業からのご相談が中心です。地域では製造業が集積する大田区や品川区などからの相談が目立ちますが、葛飾区内企業からもお寄せいただいています。

共同研究・受託研究の実績は、令和5年度で全224件あり、うち約36%に当たる80件が中小企業との契約になっています。

Q どのようなことがきっかけで技術相談がはじまり、共同研究に結びつくのでしょうか。

A 知人を介した本学研究者とのつながりから相談が始まり、共同研究などの契約へ発展するケースが多く見られます。また、プレスリリースや学会発表、論文、展示会といったイベントを通して本学の研究を知り、関心を持たれた企業のみなさまから直接お問い合わせいただくこともあります。そのほか、

工学、建築、システムからデザインまで
理工学分野のすべてを対象に
活動を展開しています！



田中 芳親さん

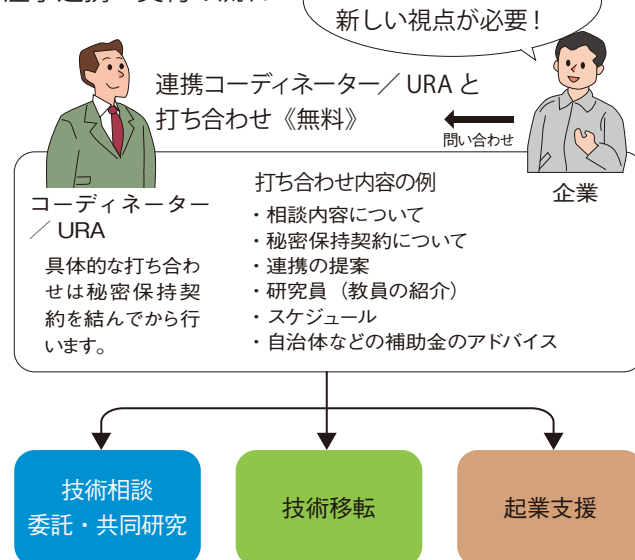
芝浦工業大学
複合領域産学官民連携推進本部
産学官連携コーディネーター／
リサーチアドミニストレーター(URA)

中小企業振興公社などの公的支援機関や金融機関からのご紹介いただくケースもあり、こうしたご相談から共同研究に結び付いています。

皆さんの会社で「技術的な課題がある」、「これまでにない新しい視点が必要だ」といったお悩みがございましたら、ぜひ産学連携をご検討されてはいかがでしょうか。まずはどのように連携を進めればよいかも構いません。打ち合わせは私たち連携コーディネーター／リサーチ・アドミニストレーター(URA)が無料で受け付けております。葛飾区内企業の皆様からのご連絡を心よりお待ちしておりますので、お気軽にお問合せください。

*次号では産学連携の形態、留意点などについて紹介させていただきます。

産学連携—契約の流れ



問い合わせ先 Email sangaku@ow.shibaura-it.ac.jp

ニュースすくらんぶる

第31回「機械要素技術展」 区内企業10社が参加

葛飾区では、令和8年7月1～3日の3日間、東京ビッグサイト（江東区）で開催された第31回「機械要素技術展」に今年度も区のブースを設け、区内の中小製造業10社が出展しました。

参加したのは、(株) タグチゴム、橋本精密工業(株)、(株) ヒキフネ、新越精機(株)、河政工業(株)、(株) 浅川製作所、日工産業(株)、(株) チバダイス、ミズホ金属(株)、(株) エレナの各社。それぞれ、製品やパネルなどの展示を工夫し、足を止める来場者に商談に結びつけようと、独自技術の紹介などに力を注ぎました。

また、区では「葛飾ブランド事業紹介コーナー」を設



第31回機械要素技術展の葛飾区ブース

け、認定製品・技術の魅力や町工場のこだわりをわかりやすく紹介したマンガ「葛飾町工場物語」を無料配布し、葛飾区が都内23区で第4位の工場数を誇る町工業の集積地となっていることをアピールしました。

東京TASKものづくりアワード2026 応募製品を募集しています！

ものづくり企業が
数多くある葛飾区
と台東区、荒川区



の3区が毎年、合同して実施している「東京TASKものづくりアワード2026」で、今年も応募製品を募集しています。

このアワードは、3区内の工場を中心に開発された「暮らしを豊かに、より便利にする新しい生活雑貨・日用品など」を一堂に集め、学識経験者やバイヤー、デザイナーなど、各業界の有識者による審査を行い、大賞（1点、賞金10万円）、優秀賞（2点程度、同5万円）、奨励賞（4点程

度、同3万円）、特別賞の各賞を決定し、表彰するもの。

今年度は、全ての応募製品を令和9年12月に東京ビッグサイトにて開催する「町工場見本市（葛飾区主催）」で展示する予定です。

応募締め切りは、令和8年9月30日。応募資格は、東京TASK地域（葛飾区、台東区、荒川区）内の事業者（企業もしくは個人）で、かつ応募製品の主たる製作者。その他、対象製品、応募方法など詳しい情報は、右のQRコード（東京TASKホームページ）から。

皆さまからの、ふるってのご応募をお待ちしています。



東京TASKホームページ

葛飾／連携 掲示板

令和8年度／第2回「テクノロジーカフェ」 ロボット技術をテーマに9月24日（木）開催 決定

葛飾区内外の企業の皆様が大学の研究者と気軽に交流できる少人数・参加型のセミナー「テクノロジーカフェ」の次回（令和8年度第2回）の開催概要がこのほど決まりましたので、お知らせします。

講師として、芝浦工業大学のロボットタスク・システム研究室の吉見卓先生にご登壇いただき、「ロボット技術で製造現場の課題を解決！」と題して、最新ロボット技術の製造業現場への展開について、お話しいただく予定です。

日 時 令和8年9月24日（木）午後6時～午後8時

会 場 テクノプラザかつしか 視聴覚室（3階）

講 師 吉見卓先生

（芝浦工業大学 工学部教授／電気・電子工学
課程課程長／電気・ロボット工学コース担当
／ロボットタスク・システム研究室）

主 催 葛飾区、葛飾区産学公連携推進協議会

定 員 30名程度（参加費無料）

なお、講演の詳しい内容、参加申し込みのご案内などは、次号の「テクノロジーカフェへようこそ」で紹介します。

発行：葛飾区産業観光部 商工振興課 工業振興係
〒125-0062 葛飾区青戸 7-2-1 テクノプラザかつしか2階
電話 03-3838-5587
制作：株式会社サンビジネス